

チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注)	No.	タイトル	自治体名
	13	家庭養護の推進、地域包括ケアシステムの推進	東京都中野区
アイデア名 (公開)	まざるテラス——「まざる」を軸にした新しい地域交流の場		

(注) 地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	まざるテラス		
チーム属性 (公開)	☒ 1. 市民によるチーム ☐ 2. 学生によるチーム ☐ 3. 市民、学生の混成によるチーム		
代表者情報	氏名 (公開)	小笠原 佳奈	

※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

(注意書き)

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

＜公開非公開など＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。
5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

＜チームメンバー名簿＞

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

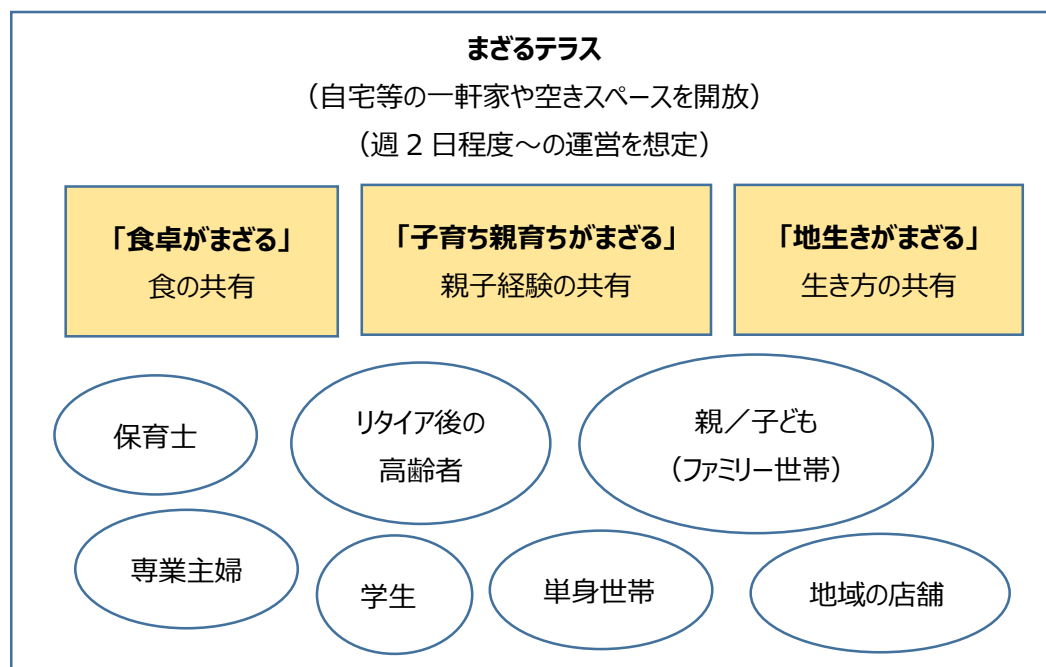
2. アイデアの説明（公開）

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア（公共サービス）のストーリーを語ってください。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれがする、何をする、どこでする、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

従来イメージされる地域交流の場を超え、地域や社会の問題に対して地域住民みんなで取り組むための場
＝まざるテラス——「まざる」を軸にした新しい地域交流の場。



＜ポイント1＞ 「まざる」を軸に、あえて年齢・属性を絞らないことで、「単身×ファミリー」「ファミリー×学生」「高齢者×子ども」など、これまで少なかった層の交流を狙う。

＜ポイント2＞ 趣味娯楽ではなく生活の一環として不可欠な「食」「保育」「仕事づくり」等を取りあつかうことで、参加意欲や意義、やりがいを醸成する。

＜ポイント3＞ 金銭のやりとりを発生させる。
無料参加や無償ボランティアではなく、個々人の技能や時間をきちんと金銭に換算する。

「食卓がまざる」：食の共有／地域の飲食店と住民の交流／孤食になりがちな世帯をサポートする。

「子育て親育ちがまざる」：親子経験の共有／学生や単身世帯の子育て体験／ファミリー世帯に一時保育サービスを提供／里親制度の認知度を上げる／子連れ出勤の紹介や復職支援も行う。

「地生きがまざる」：生き方の共有／勉強会やバザー等の催しで年齢や所属をまたいだ交流／仕事づくり／他の地域との交流（なかの里・まち連携事業などとの連携もできれば嬉しい）

↓↓↓

地域の中での支え合いを強化し生き方の多様性をバックアップすることで

地域への信頼・安心感を高め、ファミリー世帯の定住を誘致／単身世帯の孤立を防ぐ。

「まざる」＝シェアリング・エコノミーの思想で新しいサービスを考案・実施、有効な取り組みを横展開していく。

(2) アイデアの論拠（公開）

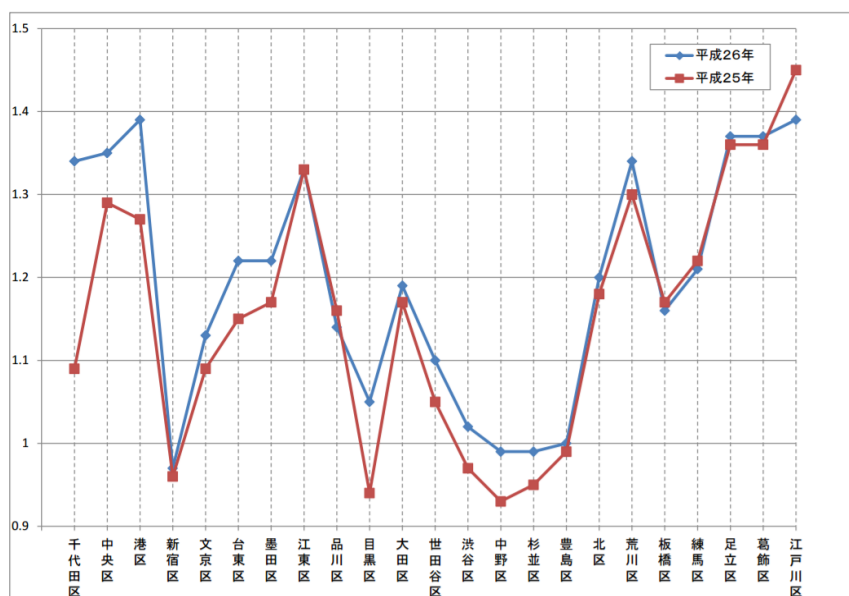
アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の 2 ページの欄内におさまるようお願いします。

◆なぜ「ファミリー世帯の定住を誘致／単身世帯の孤立を防ぐ」を目標とするのか？

少子化が激しく進行し、単身世帯の増加が顕著と予想される中野区では、今後「ファミリー世帯の定住誘致」「単身世帯の気軽な地域交流」が重要と考える。

・中野区の合計特殊出生率 0.99 は 23 区で最下位。（政府目標は 1.8）

23 区の合計特殊出生率



参考資料 5

区名	平成26年	平成25年
千代田区	1.34	1.09
中央区	1.35	1.29
港区	1.39	1.27
新宿区	0.97	0.96
文京区	1.13	1.09
台東区	1.22	1.15
墨田区	1.22	1.17
江東区	1.33	1.33
品川区	1.14	1.16
目黒区	1.05	0.94
大田区	1.19	1.17
世田谷区	1.10	1.05
渋谷区	1.02	0.97
中野区	0.99	0.93
杉並区	0.99	0.95
豊島区	1.00	0.99
北区	1.20	1.18
荒川区	1.34	1.30
板橋区	1.16	1.17
練馬区	1.21	1.22
足立区	1.37	1.36
葛飾区	1.37	1.36
江戸川区	1.39	1.45

（「23 区の合計特殊出生率」東京都港区の資料より：

<https://www.city.minato.tokyo.jp/houdou/kuse/koho/houdouhappyyou/documents/20151026houdou105.pdf>）

・2030 年の高齢化率、中野区は東京 23 区で第 4 位（25.15%）。

・2010～2030 年ファミリー世帯の増加率予想、中野区は東京 23 区でワースト 3 位（-45.7%）。

（一般財団法人森記念財団「2030 年の東京 part3 成熟した世界都市東京の街づくり ～東京の資産を有効活用し、生活多様性社会を構築する～」より：http://www.mori-m-foundation.or.jp/pdf/tgd_part3_newsrelease.pdf）

・中野区の 3 世帯同居率は、東京平均より低い。

・中野区の単身世帯率（60%）は、全国 32.4／東京 45.8 に比べて多い。

・ファミリー世帯（夫婦 2 人および子どもを含む 2 人以上の世帯）で、転出が超過している。

・中野区の総人口は、2040 年に 30 万人を割り、2050 年には 26 万人まで減少すると推計、年少人口対老年人口の推計比率は、2020 年に 8.8%対 29.7%。2040 年には 7.7 対 42.0。2050 年には 7.0 対 55.7（＝生産年齢 37.3！！）と推計されている。

（東京都中野区「中野区の第 2 次 10 年計画」より：<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/101500/d010425.html>）

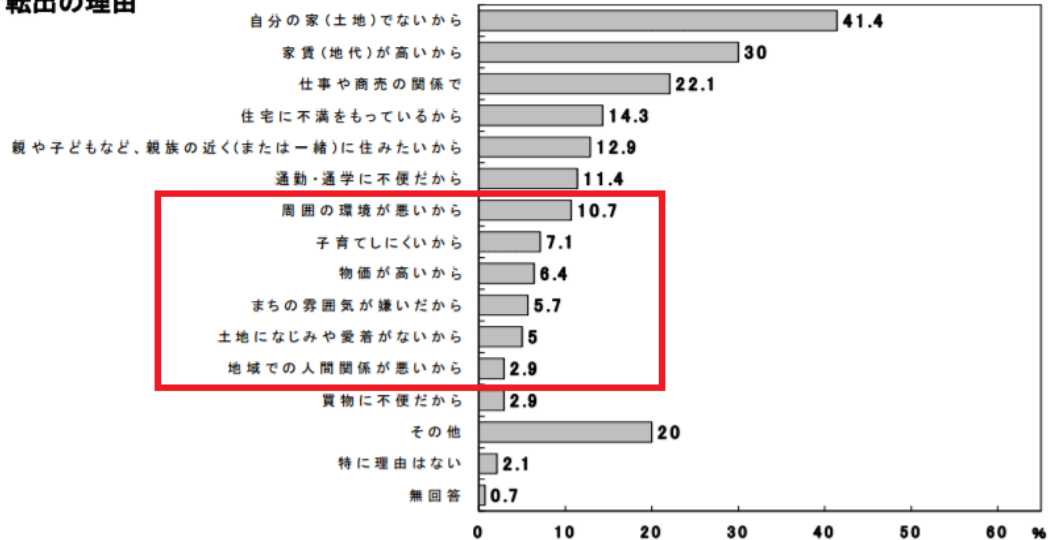
◆「ファミリー世帯の定住誘致」を目指すためには？ なぜ転出するのか？

・上位を占める理由だけでなく、**地域での取り組みが可能な理由に着目し、解決を目指す。**

「**周囲の環境が悪い**」「**子育てしにくい**」「**まちの雰囲気嫌い**」「**土地になじみや愛着がない**」

「**地域での人間関係が悪い**」

転出の理由



(「中野区住宅白書 2008」「区政世論調査・区民意識調査による区民の意識」より：<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/502000/d004380.html>)

※「子育てしにくい」……2016年10月時点で、一時保育の枠もほぼ満員、申し込みすらできない状況。

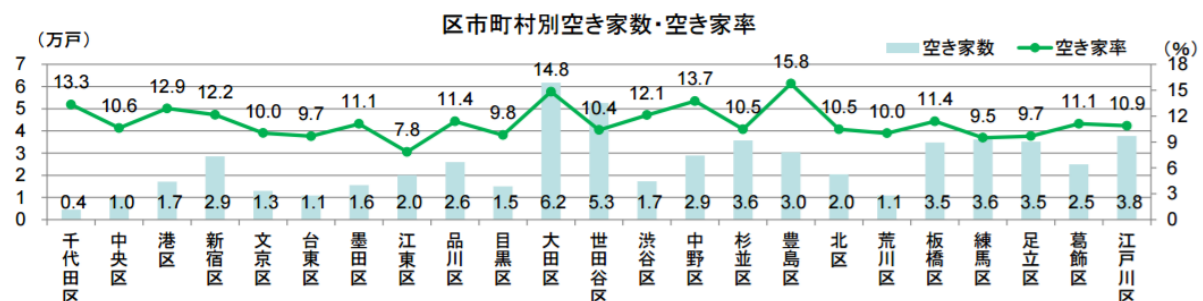
→待機児童の問題（「枠」は増えたものの需要が伸びて追いつけないのが待機児童増の要因との声も）。

→専業主婦に対する一時保育サービスの提供。

◆中野区の一軒家・空き家の開放

・中野区の空き家率は13.7%、今後さらに高齢者の持ち家（一軒家）の空き家化が予想されるが、

平成27年1月東京都の調査時点では、**中野区はまだ「空き家活用事業」に着手していない。**



(東京都都市整備局「平成27年度 第3回 東京都住宅政策審議会企画部会(平成27年8月6日)における資料及び主な

意見の概要」資料-5-2 空き家の現状と取組【資料集】」より：

http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/juutaku_kcs/pdf/h27_05/shiryo_27_05_08.pdf)

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

<段階 1> 「食の共有」「保育体験」を契機とした新しい地域場の場づくり。

専業主婦である母子とリタイア後の高齢者を中心に継続的な運営ができるよう、内容と価格報酬を調整。

固定スタッフ：保育士資格を持つ。

地域の飲食店・料理研究家など：料理の講師やアドバイザーを務める。飲食店であればお店の PR にも。

ファミリー世帯：食事・一時保育サービスを利用できる。主体的に運営にも関われる。

単身世帯・学生：食事・子育て体験を利用できる。主体的に運営にも関われる。

<段階 2> 各種の「勉強会」から「仕事づくり」の実現へ。

個々人の技能や経験・人脈を活かしたイベントや勉強会を開催し、会社に所属する勤務体系ではない、新しい仕事づくりを模索。子連れ出勤の紹介強化、復職支援も。

<段階 3> 地域をまたいだ交流で、日本全体の活性化に貢献する。

他の地域での有効的な活動や取り組みを紹介・取り入れていく。なかの里・まち連携事業などとの連携。

里親制度など児童養護について広報していく（親子体験のゴールのひとつ）。

(4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的に xx という制約をクリアできれば、追加で ○○ ということが実現できる」など）について、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。

<アピールポイント>

- ・今後さらに注目されるであろうシェアリング・エコノミーの思想が基盤にある。
- ・子育て世帯および高齢者層に対して、ただサービスを提供するのではなく、主体的な参画を促し対価も発生させることで、個々人の心身の充実と交流の強化を計る。
- ・生活の一環である「食」という切り口で、単身世帯や学生の参加を促す。
- ・子育て世帯に対して、「100（預けて働く）か 0（専業主婦）か」と迫るのではなく、その中間「子どもと一緒にできる範囲で活動して金銭を得よう」という新たな提案。
- ・あえてターゲットを絞らず「まざる」という概念を軸にすることで、これまで接点の少ない層や業界／世代を繋げていける。それによって、またさらに新たなサービスに取り組むことができる。
- ・すでにある一軒家（自宅／空き家）を開放するため設備投資が安価で済み、成功事例を横展開しやすい。